

## 「もらう」と「わたす」の発達

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科

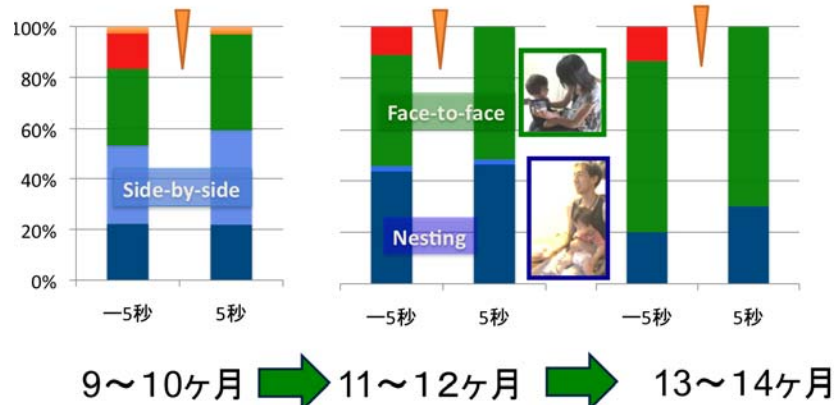
嶋田容子

「応答」の発達を研究するなかで、今回、「もらう(Taking)」「わたす ( Giving )」というやりとりに注目してみました。普段の通りの食事や遊びの場面 58 時間から「もらう」と「わたす」を集めると、全部で 348 ケースありました。月齢を追って「わたす」が 1%(9～10 ヶ月)→12%(11～12 ヶ月)→43% ( 13～14 ヶ月 ) と、増えていました。

「もらう」「わたす」はどのような状況で起きていたのでしょうか？ 下の図は、受け渡しの 5 秒前→受け取った・渡した瞬間→その 5 秒後と、赤ちゃんの姿勢や相手との位置関係の変化をあらわしたものです。13 ヶ月頃に、赤ちゃんともわりの人とのやりとりにおける関係が少し変わっているのがうかがえます。

Face-to-face: 養育者が視線を交わしてやりとりしやすい位置

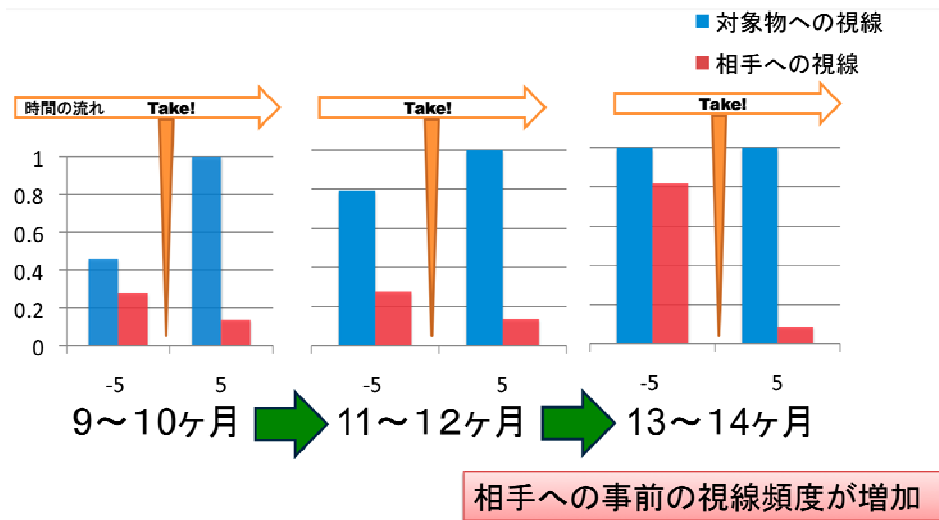
Nesting: 視線は合わないが、養育者が乳児の行動をガイドする位置



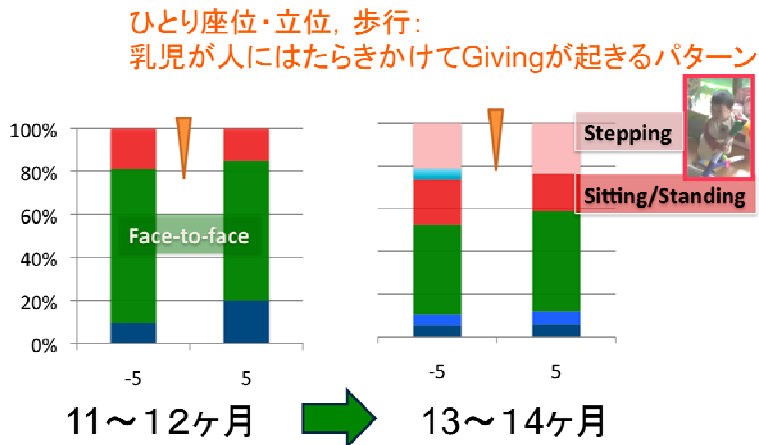
## 1. 赤ちゃんが受け取った場合

(Face-toface = 対面 , Nesting = 前向きのだっこ)

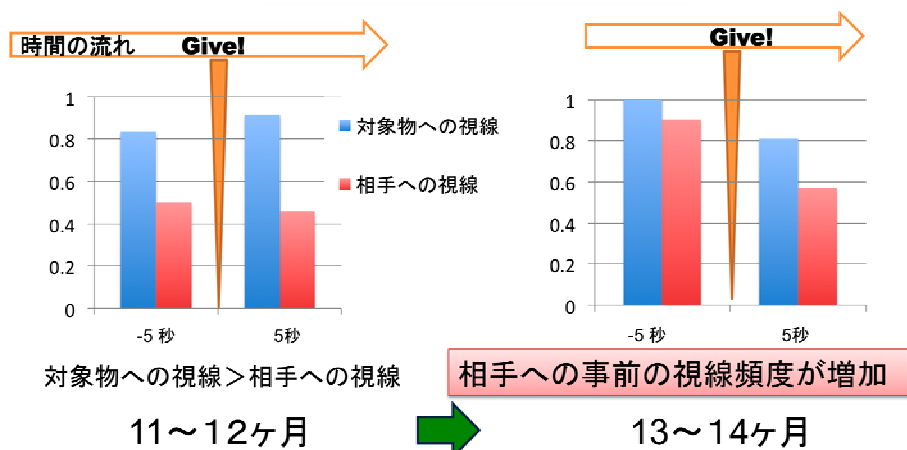
月齢を追って、大人と対面の位置でもらうケースが多くなりました。また赤ちゃんの視線は初め、相手の人より受け取る物に集中していました。ところが13ヶ月を過ぎると、受け取る直前に相手の人をよく見るように変化しています。



## 2. 赤ちゃんが渡し、ほかの人が受け取る場合



13ヶ月以降、赤ちゃん



んが自分から移動して，渡しに行くケースが多くなりました。渡そうとする相手を事前に見ることも，やはりこのころ増えました。